

県医活動報告

平成25年度 女性医師支援事業連絡協議会

日時：平成26年2月21日(金) 14時～16時30分

場所：日本医師会館 小講堂

報告：大分県医師会男女共同参画委員会

委員長 谷口 邦子

平成26年2月21日(金) 14時から16時30分まで日本医師会館小講堂において以下のプログラムで開催された。小森貴常任理事の司会で始まった。

次 第

司会：常任理事 小森 貴

開 会
挨 拶
議 事

日本医師会女性医師支援センター センター長 松原 謙二

1. 女性医師支援センター事業ブロック別会議 開催報告

(各ブロック会議で報告された特徴的、先進的な取り組みの紹介)

(ブロック)

(発表)

- | | | |
|---------|--------------------|---------|
| ①山形県医師会 | 山形県医師会理事 | 神村裕子先生 |
| ②茨城県医師会 | 茨城県医師会男女共同参画委員会委員長 | 青木かを里先生 |
| ③岐阜県医師会 | 岐阜県医師会常務理事 | 戸谷理英子先生 |
| ④兵庫県医師会 | 兵庫県医師会理事 | 渡辺弥生先生 |
| ⑤愛媛県医師会 | 愛媛県医師会常任理事・女性医師部会長 | 今井淳子先生 |
| ⑥宮崎県医師会 | 宮崎県医師会常任理事 | 荒木早苗先生 |

2. 質疑応答(全体)・総合討論

閉 会

初めに日本医師会女性医師支援センター松原謙二センター長より挨拶があり、続いて各ブロック会議で報告された特徴的、先進的な取り組みが紹介された。

1) 山形県医師会 山形県医師会理事 神村裕子先生

山形県医師会では女性医師支援については平成24年度より勤務医部会で取り扱っており、県の地域医療対策課との連携を図っている。

医師会役員中の女性医師は理事1名、議長1名のみである。

「女性医師の短期正職員制度導入」は、何らかの形で導入されているが、女性医師の確保に結びついてはなく、勤務環境改善から取り組むべきである。

ドクターバンク事業では平成24年度求人15件、求職18名であり、就職成立が2名であった。再研修は山形大学が担っている。

女性医師支援状況については申し出により協議するとなっていて、「病児保育」「介護支援」はほとんど考えられていない。

シンポジウムでは外勤者の交代要員も支援しているところがあり、「女性支援は勤務医支援」であるという結論である。

2) 茨城県医師会 茨城県医師会男女共同参画委員会委員長 青木かを里先生

茨城県は医師数ではワースト2位、小児科はワースト1位である。

医師・医療資源の偏在も大きな問題であり、つくば市、水戸市のみ全国平均を上回っている。

男女共同参画委員会の研修会や、高校生に「理想の医師像」作文コンクールを実施し、「女性医師勤務体制に関する調査」についてアンケートを取った。

また「保育サポート事業」に対しても周知度がいまいちであったが、アンケート調査によっていろんな具体的な意見が得られ、有意義であった。

3) 岐阜県医師会 岐阜県医師会常務理事 戸谷理英子先生

岐阜県では平成18年から女性医師の割合が頭打ち（16.5%前後）である。

男女共同参画委員会には大学の医師も参加している。

22研修病院の在籍女性医師数は常勤医師1,603名中242名、非常勤医師813名中187名である。アンケートによれば、短時間正規労働、院内保育、当直免除・回数制限、夜間呼び出し免除など勤務環境は改善されている。

勤務医にとって実際はどうかというと、勤務医の多くは医師会員ではなく、情報が伝わりにくい。

また、「病院訪問」を企画していて既に3病院で実施している。

4) 兵庫県医師会 兵庫県医師会理事 渡辺弥生先生

ユニークなものでは「ベビーシッター料金一部負担制度」が実施されているが、25%は時間外である。

「神戸大学附属病院D&Mブラッシュアップセンター」が企画され、医師の短時間勤務非常勤医員採用の他、全職員に窓口業務、情報提供、教育、育児支援等を行っている。

その他、ニュースレターの発行、郡市医師会女性医師との懇談会、病院訪問等の活動もやっている。

5) 愛媛県医師会 愛媛県医師会常任理事・女性医師部会長 今井淳子先生

愛媛県医師会女性医師部会についての説明、愛媛大学附属病院では常勤医師男性237名、女性34名、非常勤医師男性122名、女性77名である。

また平成19年度から女性医師の離職を防ぎ、復職を積極的に支援することによって地域医療に貢献できる医師を確保する目的で「地域のマドンナ・ドクター養成プロジェクト」を実施している。毎年2~4名のドクターが在籍している。

その他、「女性未来育成センター」として大学全体の研究者育成のための活動をしている。

6) 宮崎県医師会 宮崎県医師会常任理事 荒木早苗先生

前回九州ブロック会議の際、報告させていただいたので、今回は割愛する。

その後、フロアから活発な意見が出た。

*群馬県の地域医療の取組みについて補助金はどうなっているか。

・・・平成25、26年度で150万円支給されている。

*宮崎県の医師会活動の大学生の手当てはどうなっているか。・・・交通費のみ支給

*院内保育園の転勤の際の対応・・・通勤途中の保育園を斡旋する。

*茨城県のアンケートで管理職に占める割合はどうか。・・・資料がない。

*複数主治医制では医師が多数要るのでは？（病院機能評価では非常勤は認められない）

*学生・研修医に「将来の仕事の設計」をテーマに、人を集める（宮崎）

*愛媛のメンター医師の資格について・・・特別な資格はない。

また日医より、

理事への勤務医・女性医師の積極的登用に対して、「現在の理事数を2名増員し、それぞれ勤務医・女性医師1名の登用にあてるべき。」との結論で3月30日開催予定の日本医師会臨時代議員会に上程する。

との報告があった。